



設定ウィザード

この章は、次の項で構成されています。

- [開始ウィザード \(1 ページ\)](#)
- [VLAN設定ウィザード \(3 ページ\)](#)
- [ACL 設定ウィザード \(3 ページ\)](#)

開始ウィザード

開始ウィザードは、デバイスの初期設定に役立ちます。

ステップ 1 [Configuration Wizards] > [Getting Started Wizard] の順に移動して、[Launch Wizard] をクリックします。

ステップ 2 [Launch Wizard] をクリックして、[Next] をクリックします。

ステップ 3 [General Information] タブのフィールドに入力します。

- [System Location] : デバイスの物理的な場所を入力します。
- [システムコンタクト先] : 担当者の名前を入力します。
- [Host Name] : デバイスのホスト名を選択します。これは CLI コマンドのプロンプトで使用されます。
 - [Use Default] : スイッチのデフォルトのホスト名 (システム名) は switch 123456 の形式で指定されます。123456 はデバイスの MAC アドレスの最後の 3 バイトを 16 進数で表しています。
 - [ユーザー定義] : ホスト名を入力します。文字、数字、ハイフンだけが使用できます。ホスト名の最初と最後にハイフンを使用することはできません。(RFC1033、1034、1035 で指定されているように) 他の記号、区切り文字、または空白スペースは使用できません。

ステップ 4 [Next] をクリックします。

ステップ 5 [IP Settings] タブのフィールドに入力します。

- [Interface] : システムの IP インターフェイスを選択します。
- [IP Interface Source] : 次のいずれかのオプションを選択できます。

- [DHCP] : デバイスが自身の IP アドレスを DHCP サーバから受信する場合に選択します。
- [Static] : デバイスの IP アドレスを手動で入力する場合に選択します。
- [IP Interface Source] で [Static] を選択した場合には、次のフィールドを入力します。
 - [IP Address] : インターフェイスの IP アドレス。
 - [Network Mask] : このアドレスの IP マスク。
 - [Administrative Default Gateway] : デフォルトのゲートウェイ IP アドレスを入力します。
- [DNS Server] : DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [User Account] タブのフィールドに入力します。

- [Username] : 新しいユーザ名を 0 ~ 20 文字の範囲で入力します。UTF-8 文字は使用できません。
- [パスワード] : パスワードを入力します (UTF-8 文字は使用できません)。
- [パスワードの確認] : パスワードを再度入力します。
- [Password Strength] : パスワードの強度が表示されます。
- [Keep current username and password] : 現在のユーザ名とパスワードを保持する場合に選択します。

ステップ 8 [Next] をクリックします。

ステップ 9 [Time Settings] タブのフィールドに入力します。

- [Clock Source] : 次のいずれかを選択します。
 - [手動設定] : デバイスシステム時刻を入力する場合に選択します。これを選択した場合は、[Date] と [Time] を入力します。
 - [Default SNTP Servers] : デフォルトの SNTP サーバを使用する場合に選択します。
(注) デフォルト SNTP サーバーは名前で定義されているため、DNS を設定して動作可能にする必要があります。
 - [Manual SNTP Server] : 選択した場合は、SNTP サーバの IP アドレスを入力します。

ステップ 10 [Next] をクリックすると、入力した設定の概要が表示されます。

ステップ 11 [Apply] をクリックして、設定データを保存します。

VLAN設定ウィザード

VLAN設定ウィザードは、VLANの設定を支援します。このウィザードを実行するたびに、単一のVLAN上でポートメンバーシップを設定できます。VLAN設定ウィザードを使用してVLANを設定するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Configuration Wizards] > [VLAN Configuration Wizard] の順に移動して、[Launch Wizard] をクリックします。
- ステップ 2** [Launch Wizard] をクリックして、[Next] をクリックします。
- ステップ 3** トランクポートとして設定するポートを選択します（グラフィック表示で必要なポートをマウスでクリックします）。トランクポートとしてすでに設定されているポートが事前に選択されています。
- ステップ 4** [Next] をクリックします。
- ステップ 5** [VLAN Configuration] セクションで、次の項目を設定します。
- [VLAN ID] : 設定するVLANを選択します。既存のVLANまたは [New VLAN] のいずれかが選択できます。
 - [New VLAN ID] : 新しいVLANのVLAN IDを入力します。
 - [VLAN Name] : オプションで、VLAN名を入力します。
- ステップ 6** VLANのタグなしメンバーとして設定するトランクポートを選択します（グラフィック表示で必要なポートをマウスでクリックします）。このステップで選択されていないトランクポートは、VLANのタグ付きメンバーになります。
- ステップ 7** [Next] をクリックします。
- ステップ 8** VLANのアクセスポートに設定するポートを選択します。VLANのアクセスポートは、VLANのタグなしメンバーです（グラフィック表示で必要なポートをマウスでクリックします）。
- ステップ 9** [Next] をクリックして、入力した情報の概要を確認します。
- ステップ 10** [Apply] をクリックします。
-

ACL設定ウィザード

ACL設定ウィザードは、新しいACLを作成、または既存のACLを編集する際に使用します。既存のACLを追加または変更するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Configuration Wizards] > [ACL Configuration Wizard] の順に移動して、[Launch Wizard] をクリックします。
- ステップ 2** 新規ACLを作成するには、[次へ] をクリックします。既存のACLを編集するには、[ACL] ドロップダウンリストから編集対象を選択して [次へ] をクリックします。
- ステップ 3** 次のフィールドに入力します。

- [ACL Name] : 新しい ACL の名前を入力します。
- [ACL Type] : ACL の種類を、[IPv4] または [MAC] から選択します。

ステップ 4 ACE 構成では、次のフィールドを設定します。

- [Action on match] : 次のいずれかのオプションを選択します。
 - [トラフィックの許可] : ACE 条件に一致するパケットを転送します。
 - [トラフィックの拒否] : ACE 条件に一致するパケットをドロップします。
 - [インターフェイスのシャットダウン] : ACE 条件に一致するパケットをドロップし、パケットが受信されたポートを無効にします。

ステップ 5 MAC ベースの ACL の場合には、次のフィールドに入力します。

Source MAC Address	すべての送信元アドレスを許可する場合は [Any] を選択します。送信元アドレスまたは送信元アドレスの範囲を入力する場合は [User defined] を選択します。
送信元MACの値	送信元 MAC アドレスが一致する MAC アドレスとマスク（該当する場合）を入力します。
送信元MACワイルドカードマスク	MAC アドレスの範囲を定義するためのマスクを入力します。
宛先 MAC アドレス	すべての宛先アドレスを許可する場合は [Any] を選択します。宛先アドレスまたは宛先アドレスの範囲を入力する場合は [User defined] を選択します。
宛先MACの値	宛先 MAC アドレスが一致する MAC アドレスとマスクを入力します（該当する場合）。
宛先MACワイルドカードマスク	MAC アドレスの範囲を定義するためのマスクを入力します。このマスクは、サブネットマスクなど他の用途とは異なる点に注意してください。ここでビットを 1 と設定すると、その値を気にしないことを意味し、0 はその値をマスクすることを意味します。 (注) 0000 0000 0000 0000 0000 0000 1111 1111 というマスクを例に説明します。この場合、0 になっているビットは照合され、1 になっているビットは照合されません。1 は 10 進数の整数に変換する必要があり、ゼロ 4 つごとに 0 を記述します。この例では 1111 1111 = 255 であるので、マスクは 0.0.0.255 と記述されます。
時間範囲名	[Time Range] を選択した場合、使用する時間範囲を選択します。

ステップ 6 IPv4 ベースの ACL の場合には、次のフィールドに入力します。

プロトコル (Protocol)	<p>特定のプロトコルに基づいて ACL を作成するには、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [任意(IP)] : すべての IP プロトコル パケットを受け入れます。 • [TCP] : 伝送制御プロトコル パケットを受け入れます。 • [UDP] : ユーザー データグラム プロトコル パケットを受け入れます。 • [ICMP] : ICMP プロトコル パケットを受け入れます。 • [IGMP] : IGMP プロトコル パケットを受け入れます。
TCP/UDPの送信元ポート	ドロップダウンリストからポートを選択します。
TCP/UDPの宛先ポート	ドロップダウンリストからポートを選択します。
送信元 IP アドレス	すべての送信元アドレスを許可する場合は [Any] を選択します。送信元アドレスまたは送信元アドレスの範囲を入力する場合は [User defined] を選択します。
送信元IPの値	送信元 IP アドレスの照合に使用する IP アドレスを入力します。
送信元IPワイルドカードマスク	IPアドレスの範囲を定義するためのマスクを入力します。このマスクは、サブネットマスクなど他の用途とは異なる点に注意してください。ここでビットを 1 と設定すると、その値を気にしないことを意味し、0 はその値をマスクすることを意味します。
宛先IPアドレス	すべての IP アドレスを許可する場合は [Any] を選択します。宛先 IP アドレスまたは宛先 IP アドレスの範囲を入力する場合は [User defined] を選択します。
宛先IPの値	宛先 IP の値と一致させる IP の値を入力します。
宛先IPワイルドカードマスク	IPアドレスの範囲を定義するためのマスクを入力します。このマスクは、サブネットマスクなど他の用途とは異なる点に注意してください。ここでビットを 1 と設定すると、その値を気にしないことを意味し、0 はその値をマスクすることを意味します。
時間範囲名	[Time Range] を選択した場合、使用する時間範囲を選択します。

ステップ 7 [Next] をクリックします。

ステップ 8 ACL と ACE を作成することを確認します。

ACL ルールの詳細が表示されます。[Add another rule to this ACL] をクリックして、別のルールを追加することもできます。

ステップ 9 [Next] をクリックして、ACL バインド情報を入力します。

- [Binding Type] : ACL をバインドするためのオプションを次のいずれかから選択します。

- [物理インターフェイスのみ] : ACL をポートにバインドします。ACL をバインドするポートを1つまたは複数クリックします。
- [VLANのみ] : ACL を VLAN にバインドします。[Enter the list of VLANs you want to bind the ACL to] フィールドに VLAN のリストを入力します。
- [バインディングなし] : ACL をバインドしません。

[Apply] をクリックします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。